
巻 頭 言

副学長（評価・IR担当）

評価・IRセンター長 上 田 晴 彦

皆様におかれましては、日頃から評価・IRセンターの活動に多大なご支援並びにご理解を頂いておりますことを、感謝申し上げます。お陰様で、ここに平成30年度の秋田大学評価・IRセンター「活動報告」を発行することができました。評価・IRセンター長として、厚く御礼申し上げます。

既に平成29年度に、評価センターは評価・IRセンターに衣替えされていますが、平成30年度からは従来からおこなってきた評価業務に加えて、IR業務についても本格的な活動を始めました。そのため今年度の評価・IRセンターの活動は、これまでに比べてかなり広範囲なものとなっております。

平成30年度における評価・IRセンターの評価業務に対する主な活動は、以下の通りです。まずは例年おこなっている法人評価関連の業務として、前年度の年度評価への対応、当該年度の年度計画の進捗状況の取りまとめ、および次年度の年度計画策定の支援をおこないました。さらに平成32年度に受審予定の認証評価については、内部質保証という新しい項目が付け加わったため、本年度において組織・規程の整備などの対応をおこないました。また認証評価や第3期中期目標の中間評価に関する情報を可能な限り収集するため、様々な説明会等に積極的に参加しました。さらに平成30年度から始まった全学共通の教員評価の取りまとめ作業も、評価・IR室でおこなっています。

次に平成30年度における評価・IRセンターのIR業務に対する主な活動は、以下の通りです。まずは秋田大学教員の研究業績の管理のための名寄せ作業を、全教員に対しておこないました。その結果、これまで全学的には管理できていなかった研究業績を把握でき、今後の研究IRに資する基礎データを確定させることができました。（なお本業務を遂行するにあたり、教職員の皆様の温かいご協力に感謝しております。）また入学者アンケートや在学生アンケートの調査項目の設定に加え、アンケート調査に学籍番号を連動させ、GPA等と紐づけをする体制を整えることができました。さらに他大学の先進的なIRの取り組みを視察するため、忙しい通常業務の合間を縫って東北大学・岩手大学・東北公益文科大学・広島大学等への訪問調査をおこなえたことも、大きな成果です。

以上のように、本年度の評価・IRセンターの業務は昨年度に比べて相当広いものになっていますが、これは必然的な流れだと感じております。皆様もご存知のように、文部科学省は国立大学に一層の経営努力を求める方針であり、2019年の国立大学運営費交付金約1兆円のうち、約1300億円を評価に基づき配分する競争的な予算とすることが決まっています。さらに衝撃的なことに、国立大の第4期中期目標期間が始まる2022年度から、評価と配分の仕組みを交付金全体に広げる方針も打ち出されています。改革が滞った国立大学法人は淘汰されていくことになり、国立大学法人は2004年度の法人化以降で最大の試練を迎えることとなります。

大学改革の成功は、日頃の大学の評価・IR業務の出来不出来に大きく関連していると確信しています。評価・IRセンターは今日の厳しい情勢を見据え、評価・IRに関する情報を可能な限り収集・分析し、対応を心がけるつもりでおります。そして学長・理事はもちろん、各部局等とも密接な連携を図り、秋田大学に必要な不可欠となる評価・IR活動を進めていくつもりでおります。これまで以上のご支援とご協力を、心からお願い申し上げます。